

要援護者の避難訓練を実施

〜新琴似一番通東町内会〜

新琴似一番通東町内会（しもださだひろ（下田貞廣会長））では、今年6月に要援護者の避難を想定した防災避難訓練を実施しました。これは、大規模災害時に自力で避難することが困難な方に、あらかじめ地域で決めた支援者が避難の援助をする取り組みです。

新琴似地区では平成24年に連合町内会と新琴似地区社会福祉協議会、北消防団とが「大規模災害時における要援護者情報の提供に関する協定」を

結び、地域の要援護者の



防災避難訓練の様子



車いすでの避難

情報などをまとめた「福祉マップ」の作成と活用を進めています。同町内会では、これらの取り組みを踏まえて、平成24年から要援護者を支援する活動を始めました。

同町内会副会長で福祉部長の石川武雄（いしかわ たけお）さんは「支援体制が実際に機能することが大切なので、昨年から訓練を始めました。継続的に行うことで町内の連携を深めていきたいですね」と話していました。

地域を災害から守るために

〜北区地域防災の取り組み〜

災害はいつ起こるか分かりません。北区では今年も「北区防災訓練」を9月1日に新川中央小学校で行いました（写真「きた8ページ」）。

また、北区まちづくり協議会でも講演会の実施など防災への取り組みを進めています。

今月は「地域は自分たちで守る」ためのさまざまな防災活動を紹介します。地域一体となって取り組む防災対策について皆さんも考えてみませんか？



防災訓練で地域連携を確認

〜太平百合が原まちづくり協議会〜



訓練の様子を説明する協議会の皆さん（左から品木さん、青柳さん、鈴木さん）

いきましたが、避難所となる小学校区には複数の町内会があるため、実際に災害が発生した場合にスムーズに連携を図ることができかが心配でした。そのためにも、町内会同士の防災訓練はとても重要だと考えています」と話していました。

太平百合が原まちづくり協議会（鈴木誠誠会長）では、平成24年に実施した災害図上訓練（DIG）をきっかけに、町内会同士の円滑な連携を図ることを目的に、まちづくりセンターの協力を得て、

基幹避難所である小学校での防災訓練を昨年から始めました。

同協議会環境部会長の青柳史匡（あおやぎ しみたく）さんは「これまでで単位町内会ごとでの自主防災の取り組みはして



小学生も参加した間仕切り設営訓練

昨年、太平南小学校で行われた訓練では児童も参加し、煙道通過体験や避難所の間仕切り設営を行いました。今年、10月24日13時から太平小学校で実施されます。

